

氏名	今福 恵子 (学籍番号 10D002)
学位の種類	博士 (看護学)
学位記番号	第 11 号
学位授与年月日	2014 年 3 月 10 日

論文題目 パーキンソン病療養者に対する災害支援の研究
—災害時の一般避難所における保健師の支援課題—

論文審査担当者	委員長	川上 昌子	教授
	委員	藤本 栄子	教授
	委員	川村 佐和子	教授
	委員	小島 通代	教授
	委員	宮前 珠子	教授

論文要旨

I. 研究の背景；我が国は、近い将来、大災害の発生が予想されている。1995 年に発生した、「阪神淡路大震災」は国民に災害対策の重要性を印象付けた。被災した人々は災害時避難所に入所し、一時期を過ごす。研究者はパーキンソン(以下 PD と略す)療養者の会の活動を支援している中で、PD 療養者が避難所生活になじめず苦労していることを知り、保健師による PD 療養者に対する避難所生活支援について研究することとした。

II. 研究目的；PD 療養者を対象として、災害一般避難所(以下、避難所と略す)において予想される生活障がい調査・分析し、災害時の一般避難所における保健師の支援課題を明らかにする。このことにより、健康問題を抱える人々の被災時支援に寄与することを目的とする。

III. 研究方法

1) **研究デザイン**；質的記述的研究

2) **調査・分析方法**

(A) **PD 療養者の個別面接調査**；生活障がいもちながら自宅で生活している、重症度分類ヤールⅢの静岡県在住の PD 療養者 15 名を対象に、インタビューガイドを用いた半構成的面接を行ない、面接内容を質的帰納的に分析し、カテゴリー化を行った。

(B) **保健師の個別面接調査**；静岡県内の行政保健師から難病担当経験を持ち、被災地での支援経験のある保健師 7 名を対象に、インタビューガイドを用いた半構成的面接を行い、面接内容を質的帰納的に分析し、カテゴリー化を行った。

3) **倫理的配慮**；聖隷クリストファー大学倫理委員会の承認あり (承認番号 011056)。

IV. 結果

(A) **PD 療養者の個別面接調査結果**；PD 療養者が予想する避難所での生活障がいは、【PD 症状が悪化する】【食事・移動・活動・清潔に支障をきたす】【他者との交流の減少により意欲が減退する】【緊急時の支援依頼ができない】【情報収集力が乏しく、情報の入手が困難になる】であった。PD 療養者が

予想する避難所での周囲との関係は、【制御できない突進や転倒等により、周囲の人から危険な人と捉えられる】【環境を乱している人と捉えられる】【動作緩慢により、後ろに待つ人を苛立たせる】【夜間の睡眠障害や精神障害で周囲の人の睡眠を妨げる】【無動や筋硬直や精神症状により周囲は PD 療養者の対応に困惑する】であった。PD 療養者の避難所生活のイメージは、【周囲の人は PD の症状に理解が薄く、積極的な支援をしてくれないだろう】【病気を告白することには消極的である】【病気を告白しなくては支援を得られないだろう】【病気を告白できないだろう】【災害時は一人では生存できず死にたい】であった。

(B) 保健師の個別面接調査結果；保健師の PD 療養者への支援課題は、次の 4 項であった。

- (1) 平時の療養者支援：【減災にむけて自助を強化する支援】【平時から災害時に必要な準備をする支援】【平時から近隣者との人間関係を作っておく支援】【平時から求める支援を提示できる媒体を作っておく支援】
- (2) 平時の地域活動：【難病患者や専門職に配布するマニュアル等にパーキンソン療養者支援の内容を載せる】【平時から PD や療養者理解と支援法を伝える】
- (3) 避難所内療養者支援：【保健師による健康管理・看護支援、医療や薬剤入手への支援】【体調悪化防止のための生活環境の整備】【療養者と周囲の人たちとの関係を良好に保つ支援】【療養者の把握】【適切な資源に結び付ける】
- (4) 組織的な支援：【PD 療養者を把握する】【療養者の支援要求を組織的に受け止める】【避難所内で PD の理解を広め支援者を増やす】【PD 療養者に対する支援体制づくり】【地域外支援を支援体制に組み込む】【医療や薬剤の適切な配置、避難所環境の整備、外部支援の組み込みに対する提案をする】

V. 考察；保健師は地域保健法や国の「地域における保健師の保健活動に関する指針」において、災害を含めた健康危機管理への迅速かつ的確な対応が求められており、災害発生時は、全国の保健師は派遣保健師として被災地の支援にあたるシステムができています。しかしながら、大規模災害直後には災害時要援護者の支援は困難であり、PD 重症度ヤールⅢの療養者を含む難病の対策においても、保健師による災害支援は喫緊の問題とされている。

具体的には、不足する医師や薬剤の効果的な活用、他地域からの支援者の組み込み、ニーズの把握と対応する解決策の実行に対する施策提言、そしてこれらを実施する際の専門職員としての技術提供が指摘されている（千葉, 2011）。この指摘は、本研究結果を支持するものである。また、災害時に適切な支援を行えるためには、平時からの備蓄や、近隣へ自身の病気を知らせ、支援を得るなどの PD 療養者や家族の自助力を強化する支援や、近隣社会に対して PD の理解を求め、PD の勉強会やボランティア育成講習会など平時からの活動が保健師の支援課題である。結果を一般化するためのさらなる研究が必要である。

VI. 結論；ヤールⅢの PD 療養者と被災地派遣経験を持つ保健師の調査から、今後の保健師支援としては、自助力の強化、平時から住民の理解を促し、災害時支援者を増やすとともに、災害時には適切な医療へのアクセスを図り、症状に対応する看護及び環境整備、支援システムづくりを行うことが役割であると示唆を得た。

論文審査の結果の要旨

本研究は、近い将来、大災害が発生することが予想されることから、平常時から大きな生活障害をかかえる難病の一つであるパーキンソン病療養者（PD ヤール 3 の重度者）について、予想される生活障害を調査分析し、災害時の一時災難所における保健師の支援課題を明らかにすることを目的に取り組みられた研究である。すなわち、非常時には生活障害の現れ方が困難度を増し、その行動が周囲から理解されにくい病気でもあることから、生活環境への特別の配慮が必要であり、それに対応する専門的支援がなされる必要があることが調査結果から明らかにされている。加えて、研究者本人がそれまで関わってきた PD 友の会へのかかわりから、災害時の対応のみならず、平時における保健師活動としての援助のあり方についても視野を広げて、取り組みの課題を明らかにしている点に本研究の独自性がある。

研究方法として、量的調査ではなく、問題の性格から個別面接調査を採用している。一つの調査は地域生活支援者ではあるが病気の知識も経験もほとんどない民生委員を対象としたもの、二つ目の調査は PD ヤール 3 療養者の支援、被災地派遣経験、および難病支援経験のある保健師を対象としたもの、三つ目はパーキンソン病療養者（PD ヤール 3）を対象としている。

この三種類の調査から、災害時には専門職である保健師の対応が不可欠であること。避難所の受け入れ態勢の諸問題に関連して、整えられる必要がある諸点の指摘がおこなわれ、そして、療養者の自助力の開発の方向が示されている。

災害時における難病療養者への対応について、きめ細かく捉えられ、諸点について明らかにされ、示されたことが本研究の成果である。また、それらとのかかわりで、保健師の必要性と支援課題が明示されたことが成果である。非常時におけるいわゆる「障害者」対応への施策から疎外されがちな難病療養者の問題に着目した優れた研究であるといえる。

以上の結果から審査委員全員により、本論文著者に博士（看護学）の学位を授与する価値があるものと認められた。